

事例5 題材を通して見方・考え方を働かせ、内容CとBの関連を図った授業展開の事例

- 学年 第5学年
- 主な内容
 - 内容「B衣食住の生活」(6)「快適な住まい方」ア(イ)イ
 - 内容「C消費生活・環境」(2)「環境に配慮した生活」アイ
- 事例のポイント
 - ①題材導入時に児童が「安全」「快適」「環境」のキーワードに気付き、題材を通して生活の営みに係る見方・考え方として働かせながら学習に取り組むことができるようにする。
 - ②不用品やリユースの実物を掲示したり、家庭での調査から実際に出た不用品を話合いの教材に取り上げたりすることで、自分の生活の見直しや家庭実践に結び付ける。
 - ③デジタル付箋と共有ボードを活用し、効果的な意見交流ができるようにする。

1 題材名 「整理・整とんで快適に」 内容B(6)ア(イ)イ、C(2)アイ 第5学年

2 題材について

(1) 児童について (省略)

(2) 題材について

この題材は、B「衣食住の生活」の(6)「快適な住まい方」ア(イ)イとC「消費生活・環境」の(2)「環境に配慮した生活」アイとの関連を図って設定している。本題材は、「健康・安全・快適」や「持続可能な社会の構築」の視点から、気持ちよく生活するための身の回りの整理・整頓や清掃の仕方、環境に配慮した物の使い方について理解したり適切にできるようにしたりするとともに、自分と家族の環境に配慮した住生活に向けて、課題を解決する力と、実践的な態度を育成することをねらいとしている。

本題材を通して、住まいの整理・整頓を行うことで、より安全に、より快適に、より環境に優しく毎日を送ることができることを知り、身の回りの整理・整頓の仕方を理解し、適切にできるようにしていく。さらに、持続可能な社会の構築の視点も大切にし、環境に配慮して不用品を活用したり、不用品を出さないように物を使ったりすることができるようにしていく。

(3) 指導について

指導に当たっては、まず第1時で、散らかっている部屋の写真から整理・整頓の必要性について話し合い、自分の生活を振り返り、整理・整頓について課題を設定する。ここでの児童の気付きを基に、「安全」「快適」「環境」の3つのキーワードを学級で設定していく。題材を通してこのキーワードの意識化を図り、生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、学習活動が進められるようにする。第2時では、身近な引き出しの中の整理・整頓を、児童全員がICT端末で疑似体験する。共通する引き出しについてグループや学級で考えることで、考えを広げたり深めたりしながら、課題解決に向けて主体的に取り組むことができるようにする。整理・整頓について気付いたポイントを基に、自分の引き出しの中を実際に整理・整頓し、その際、出てきた不用品に着目させる。第3時では、前時で出た不用品や家庭で調査してきた不用品を確認し、自分の行動と環境とのつながりに気付くようにする。そして、環境に配慮した物の使い方について理解することができるようにする。第4時では、これまでの整理・整頓と環境に配慮した物の使い方の学習を基に、住まいの整理・整頓の計画を立てる。その際、不用品が出てしまったときの具体策を考えさせ、環境に配慮した物の使い方ができるようにする。第5時では、家庭実践の振り返りとして、計画どおりにできたこと、できなかったこと、実践の中で考え工夫したことなどを評価し、グループで交流し、実践を改善していく。また、児童が、課題を解決できた達成感や実践する喜びを味わうことで、今後の児童の実践への意欲を高めることができるようにする。

3 題材の目標

- (1) 住まいの整理・整頓の仕方を理解するとともに、適切にできる。
自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解する。
〈知識及び技能〉
- (2) 住まいの整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、住まいの整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 住まいの整理・整頓の仕方を理解しているとともに、適切にできる。 ・ 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。 	住まいの整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、住まいの整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

5 題材の指導と評価の計画（5時間扱い）

- | | |
|-------------------------|--------|
| 〔1〕なぜ整理・整とんをするのだろうか | 1時間 |
| 〔2〕どのような整理・整とんができるのだろうか | 1時間 |
| 〔3〕物の使い方を工夫しよう | 本時 1時間 |
| 〔4〕住まいの整理・整頓をしてみよう | 2時間 |

小 題 材	時 間	○ねらい ・ 学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
なぜ整理・整とんをするのだろうか	1	○整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について問題を見いだして課題を設定することができる。 ・ 散らかっている部屋の写真を見て、なぜ整理・整頓が必要なのか話し合う。		①整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について問題を見いだして課題を設定している。(ワークシート)	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 事例のポイント① 児童の気付きから設定した「安全」「快適」「環境」のキーワードを、題材を通して掲示し、見方・考え方を働かせるようにする。 </div> ・ 自分の身の回りの物の使い方やしまい方を振り返り、課題を設定す			

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後、家庭の整理・整頓したい場所の写真を撮り、自分の課題を明確にし、家庭生活を想起しながら次時以降の学習に取り組むことができるようにする。 			
どのような整理・整頓ができるのだろうか	2	<p>○住まいの整理・整頓の仕方について理解することができるとともに、適切にできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散らかっている引き出しを一つ取り上げ、ICT端末で写真を移動させながら整理・整頓をする教材を通して、疑似体験に取り組む。 ・疑似体験で考えた整理・整頓の仕方について、共通点や相違点を話し合い、整理・整頓のポイントをまとめる。 ・まとめた整理・整頓のポイントを基に、自分の引き出しの整理・整頓の工夫を考え、実践する。 	<p>①住まいの整理・整頓の仕方を理解しているとともに、適切にできる。(活動の様子、ワークシート)</p>	<p>事例のポイント① 実際に整理・整頓し、導入時に設定した「安全」「快適」「環境」との結びつきを実感できるようにする。</p>	<p>①整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について、課題解決に向けて主体的に取り組もうとしている。(発言、ポートフォリオ、ワークシート)</p> <p>②整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(ワークシート、ポートフォリオ)</p>
物の使い方を工夫しよう	3 本時	<p>○自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不用品と環境との関係について考える。 ・物の使い方の工夫を考える。 ・3Rについて知る。 	<p>②自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。(ワークシート)</p>	<p>事例のポイント① 物の使い方の工夫を考えながら、導入時に設定した「環境」との結びつきを実感できるようにする。</p>	<p>③整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について、工夫し、実践しようとしている。(発言、計画表、ポートフォリオ)</p>
住まいの整理・整頓を試してみよう	4	<p>○整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について様々な解決方法を考え、家庭実践の計画を工夫して立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整理・整頓のポイントや物の使い方の学習をともに、住まいの整理・整頓について、計画を立てる。 ・友達や教師からのアドバイスをもとに実践計画を見直す。 		<p>②整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について、実践に向けた計画を考え、工夫している。</p>	
家庭実践					

	<p>5 ○整理・整頓や環境に配慮した物の使い方について、実践を評価・改善し、考えたことを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭実践委について、計画どおりにできたこと、できなかったこと、実践の中で考え、工夫したことなどを評価する。 ・グループで交流し、実践を改善していく。 		<p>④整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。(計画表)</p> <p>③整理・整頓の仕方や環境に配慮した物の使い方について実践を評価したり、改善したりしている。(計画表、ポートフォリオ)</p>
--	---	--	--

6 本時の学習指導（本時 3 / 5）

(1) 目標

- ・自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解する。
〈知識及び技能〉

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 評価規準（◇） 【評価の観点】（評価方法） 手立て（→）
5	1 不用品と環境との関係について考える。	<p>・家庭で整理・整頓したい場所の写真の様子や家庭での不用品の調査から、不用品がどの家庭でも出ていることを確認し、その不用品がどうなっていくかを考えるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>事例のポイント② 家庭での調査結果を発表したり、児童から出された不用品の実物を提示したりすることで、自分の生活を見直すことができるようにする。</p> </div> <p>・ごみ処理に関わる映像や画像を提示するとともに、社会科などで学んだことを思い出し、環境へ配慮しながら物を使っていかなければならないことが理解できるようにする。</p> <p>・自分の物の使い方を振り返り、物の使い方次第で、ごみを減らせることに気付くようにする。</p>

P122 指導計画作成の留意事項(1)

2 15	<p>2 本時の学習のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の把握 <p>3 環境に優しい物の使い方を考える。</p> <p>(1)個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル付箋に考えを書き出す。 <p>(2)グループで考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル付箋を移動しながら、似ている考えをまとめたり、考えを広げたりする。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学習課題 「環境にやさしい」物の使い方を工夫しよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの目標「12 つくる責任 つかう責任」についてふれる。 ・児童の家庭での調査から出た以下の不用品を取り上げ、自分の生活経験と関連付けて考えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・小さくなった服 ・汚れて使わなかったノート ・たくさんある消しゴム <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント③ デジタル付箋と共有ボードを活用して、グループ内で意見交流できるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「不用品にならないための物の使い方」や「不用品になってしまったときの工夫」について考えるようにする。 ・グループや学級内で交流し、考えを広げたり深めたりできるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント③ グループでまとめた共有ボードを大型テレビや個々のICT端末に提示し、考えを共有しながら話し合うことができるようにする。</p> </div>
5 5	<p>4 環境に優しい物の使い方を発表し合う。</p> <p>5 3Rについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・むだを減らす = リデュース ・もう一度生かす = リユース ・資源として使えるようにする = リサイクル 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表した意見を「むだを減らす」「もう一度生かす」「資源として使えるようにする」という視点で分けて板書する。 ・学校や地域、店舗などで行われている取組を思い出させる。 履けなくなった上履き → 貸し出し用の上履き (リユース) 牛乳パックや新聞紙 → トイレtpペーパー (リサイクル) 不用品の服を店で回収 → 発展途上国へ (リユース) → 車の部品の材料 (リサイクル) ・5Rについて触れる。 3R+受け取らない (リフューズ)、修理して使う (リペア) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>P122 指導計画作成の留意事項(3)</p> </div>
6	<p>6 自分の物の使い方と身近な環境について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古いエプロンを巾着に作り替えた教師の作品を紹介し、物を生かして気持ちよく生活することに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント② リユースの実物を掲示し、自分の生活に結びつけることができるようにする。</p> </div>
<p>◇自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解している。【知識・技能】(ワークシート)</p>		
<p>おおむね満足できる状況 (B)</p>	<p>・「物を大切に使うこと」「むだなく使うこと」「物を生かして使うこと」など、環境に配慮した物の使い方とその理由について記述している。 →不用品を出さないようにするための物の使い方や不用品が出たときどどのように生かせるかという視点で考えるようにする。</p>	
4	<p>7 本時の学習をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の状況に十分配慮し、家庭や地域との連携を図るようにする。 ・環境に優しく物を使うためには、「物を大切に使うこと」や「むだなく使うこと」、「物を生かして使うこと」が必要であること

3	8 振り返りをする。	をまとめる。 ・日常生活での実践への意欲を高める。
---	------------	------------------------------

7 学習評価の具体例

<第3時 ワークシートの一部>

「環境にやさしい」物の使い方を工夫しよう

①物の使い方と身近な環境には、どのようなつながりがあるでしょうか。

物を大切に使うことで、ごみが少なくなり、環境がよくなると思います。

②これからどのように物を使っていきますか。

文房具がたくさん出てきたので、整理・整頓を続けて、買う時に、本当に必要かどうかをよく考えて1つの物を大切に使い切っていきます。

【知識・技能】③
※「十分満足できる」状況（A）と判断した児童の具体的な例

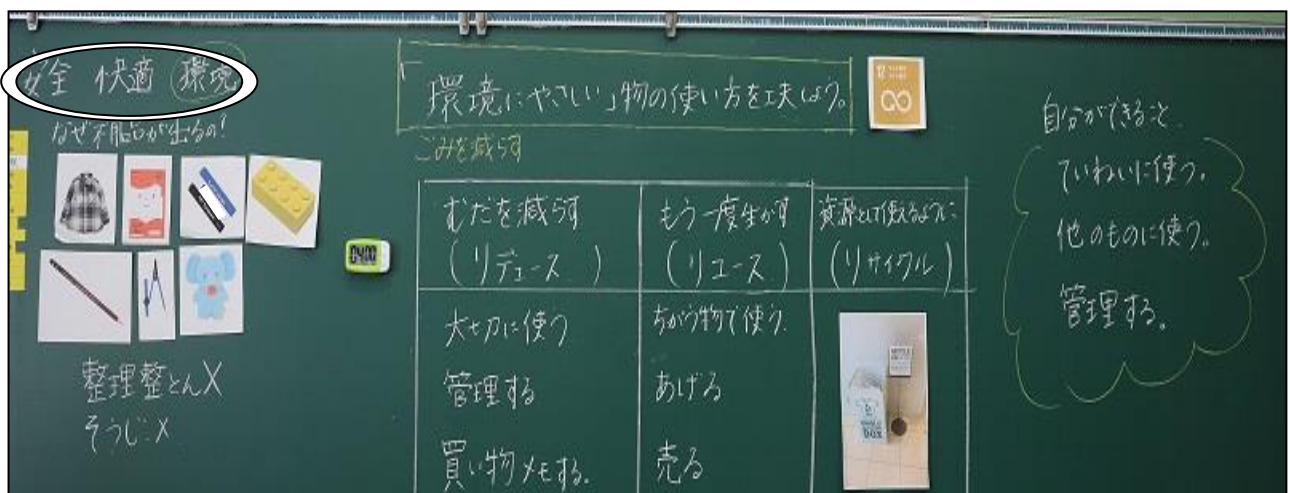
①環境との関わり
物を大切に使うことで、ごみが少なくなり、ごみ処理に関わる問題が解消され、環境がよくなると思います。自分の毎日の小さい積み重ねが周りの人や環境に結びついています。

②物の使い方
文房具がたくさん出てきたので、整理・整頓を続けて、買う時に、本当に必要かどうかをよく考えて1つの物を大切に使い切っていきます。服や家具などは、家族の意見も聞きながら、長く使える物を選びます。そして、使い終わったら他の使い道も考えてリユースに挑戦していきます。

環境にできるだけ負荷をかけないような物の使い方について、様々な視点で示している。さらに、自分の生活と身近な環境の関わりについて具体的に記述されているので、「おおむね満足できる」状況（B）を上回る「十分満足できる」状況（A）と判断した。

8 指導の実際

- ① 題材導入時の児童の気付きから設定した「安全」「快適」「環境」のキーワードを、題材を通して提示し、生活の営みに係る見方・考え方を働かせるようにする。



② 実際に児童から出た不用品やリユースの実物を掲示したり、話し合いの際に取り上げたりすることで、自分の生活の見直しや家庭実践に結び付ける。

家庭で整理・整頓したい所の写真や家庭での調査から、不用品として出された実物を提示し、課題解決に向けて自分の日常生活を振り返ることができるようにする。また、リユースされた作品を見て、物を生かして生活することのよさを知り、これからの実践への意欲を高めるようにする。

③ デジタル付箋と共有ボードを活用し、学級内で効果的に意見交流ができるようにする。

不用品を出さないためにどのようにしたらよいかについて考える際、デジタル付箋と共有ボードを活用する。グループでの話し合い時、色別に考えを書き出していくことで、一人一人の考えが明確になり、考えを増やしたり、深めたりしやすい。また、共有ボードを活用することで、別のグループの考えも共有することができる。

